

## Ⅱ 普通会計財務書類について



## Ⅱ 普通会計財務書類について

### 1 対象範囲

この財務書類の普通会計の対象となっている会計は、一般会計と11の特別会計（証紙特別会計、母子寡婦福祉資金特別会計、農業改良資金特別会計、中小企業設備導入助成資金特別会計、土地取得事業特別会計、林業・木材産業改善資金特別会計、市町村振興資金特別会計、沿岸漁業改善資金特別会計、地域総合整備資金特別会計、環境保全センター事業特別会計、公債費管理特別会計）です。

なお、下水道事業特別会計、港湾整備事業特別会計、地方独立行政法人秋田県立病院機構施設整備等貸付金特別会計（病院事業）、能代港エネルギー基地建設用地整備事業特別会計、秋田港飯島地区工業用地整備事業特別会計、工業団地開発事業特別会計（以上、宅地造成事業）の6特別会計は、連結の対象となります。

### 2 概要

#### （1）貸借対照表（概要）

##### ①貸借対照表（総括表）

（単位：億円）

資産の部	金額	負債の部	金額
1. 公共資産	31,721	1. 固定負債	13,510
(1) 事業用資産	10,302	(1) 地方債	11,861
(2) インフラ資産	21,383	(2) 退職手当引当金	1,407
(3) 売却可能資産	36	(3) その他	242
2. 投資等	2,174	2. 流動負債	1,047
(1) 投資及び出資金	653	(1) 翌年度償還予定地方債	811
(2) 貸付金	601	(2) その他	237
(3) 基金等	920		
		負債合計	14,557
3. 流動資産	450	純資産の部	
(1) 資金	440		
(2) 未収金	11	純資産合計	19,788
資産合計	34,345	負債及び純資産合計	34,345

貸借対照表の資産の部は、県がこれまでに形成した資産の額を表しています。負債の部は今後負担しなければならない額であり、純資産は返す必要がない額で企業会計の資本金及び利益剰余金に相当する額です。

資産には、現金化が可能な流動資産のほか、行政サービスを提供するためのインフラ資産等公会計特有の資産を含みます。

資産合計は、3兆4,345億円となっており、内訳は、土地・建物や道路等の公共資産が3兆1,721億円、出資金・貸付金や特定の目的のための投資等が2,174億円、流動資産が450億円となっています。財政調整基金や歳計現金は、流動資産に含まれます。

負債はインフラ等整備に要した地方債等で、その合計は1兆4,557億円です。

資産から負債を差し引いた純資産は、総額で1兆9,788億円となっています。  
それぞれの詳細は、次のとおりです。

②貸借対照表 (対前年比較)	H20		H21		比較増減	
	億円	構成比	億円	構成比	増減額	増減率
資産の部	億円	%	億円	%	億円	%
1. 公共資産	32,091	93.0	<b>31,721</b>	92.4	▲ 370	▲ 1.2
(1) 事業用資産	10,648	30.9	<b>10,302</b>	30.0	▲ 346	▲ 3.2
(2) インフラ資産	21,438	62.1	<b>21,383</b>	62.3	▲ 55	▲ 0.3
(3) 売却可能資産	6	0.0	<b>36</b>	0.0	30	500.0
2. 投資等	1,925	5.6	<b>2,174</b>	6.3	249	12.9
(1) 投資及び出資金	651	1.9	<b>653</b>	1.9	2	0.3
(2) 貸付金	612	1.8	<b>601</b>	1.7	▲ 11	▲ 1.8
(3) 基金等	663	1.9	<b>920</b>	2.7	257	38.8
3. 流動資産	490	1.4	<b>450</b>	1.3	▲ 40	▲ 8.2
(1) 資金	479	1.4	<b>440</b>	1.3	▲ 39	▲ 8.1
(2) 未収金	11	0.0	<b>11</b>	0.0	0	0.0
資産合計	34,506	100.0	<b>34,345</b>	100.0	▲ 161	▲ 0.5
負債の部／純資産の部	億円	%	億円	%	億円	%
1. 固定負債	13,219	38.3	<b>13,510</b>	39.3	291	2.2
(1) 地方債	11,637	33.7	<b>11,861</b>	34.5	224	1.9
(2) 退職手当引当金	1,368	4.0	<b>1,407</b>	4.1	39	2.9
(3) その他	214	0.6	<b>242</b>	0.7	28	13.1
2. 流動負債	1,027	3.0	<b>1,047</b>	3.0	20	1.9
(1) 翌年度償還予定地方債	789	2.3	<b>811</b>	2.4	22	2.8
(2) その他	239	0.7	<b>237</b>	0.7	▲ 2	▲ 0.8
負債合計	14,247	41.3	<b>14,557</b>	42.4	310	2.2
純資産合計	20,260	58.7	<b>19,788</b>	57.6	▲ 472	▲ 2.3
負債及び純資産合計	34,506	100.0	<b>34,345</b>	100.0	▲ 161	▲ 0.5

資産の部は、公共資産等への追加投資よりも減価償却が多いため、全体として161億円の減となっています。売却可能資産の増は、住宅供給公社の住宅用地受入が主な要因です。投資等は経済対策により昨年度より増加し、流動資産については前年度より減少しています。

負債の部は、約9割が地方債です。地方債は平成22年度償還予定額を流動負債に、平成23年度以降の償還予定額を固定負債に分けて計上しているため、これらの合算額が地方債残高となります。地方債残高は増加していますが、臨時財政対策債\*533億円の増加が含まれており、これを除けば地方債残高は減少しています。

退職手当引当金は、年度末に全職員が退職したと想定した理論値を計上しています。職員構成の変化により、前年度より39億円増加しています。

資産から負債を差し引いた純資産合計額は、472億円減少し、負債の割合が増加しています。

※ 臨時財政対策債：国の財源不足により、本来地方交付税として自治体に配分するべき額が不足した際、その穴埋めとして発行され、償還費用が後年度に地方交付税で措置されることとなっている地方債

③貸借対照表 (県民1人あたり、対前年比較)	H20		H21		比較増減	
	千円	構成比	千円	構成比	増減額	増減率
資産の部	千円	%	千円	%	千円	%
1. 公共資産	2,869	93.0	<b>2,862</b>	92.4	▲ 7	▲ 0.2
(1) 事業用資産	952	30.9	<b>930</b>	30.0	▲ 22	▲ 2.3
(2) インフラ資産	1,916	62.1	<b>1,929</b>	62.2	13	0.7
(3) 売却可能資産	1	0.0	<b>3</b>	0.1	2	200.0
2. 投資等	172	5.6	<b>196</b>	6.3	24	14.0
(1) 投資及び出資金	58	1.9	<b>59</b>	1.9	1	1.7
(2) 貸付金	55	1.8	<b>54</b>	1.7	▲ 1	▲ 1.8
(3) 基金等	59	1.9	<b>83</b>	2.7	24	40.7
3. 流動資産	44	1.4	<b>41</b>	1.3	▲ 3	▲ 6.8
(1) 資金	43	1.4	<b>40</b>	1.3	▲ 3	▲ 7.0
(2) 未収金	1	0.0	<b>1</b>	0.0	0	0.0
資産合計	3,084	100.0	<b>3,099</b>	100.0	15	0.5
負債の部／純資産の部	千円	%	千円	%	千円	%
1. 固定負債	1,182	38.3	<b>1,219</b>	39.3	37	3.1
(1) 地方債	1,040	33.7	<b>1,070</b>	34.5	30	2.9
(2) 退職手当引当金	122	4.0	<b>127</b>	4.1	5	4.1
(3) その他	19	0.6	<b>22</b>	0.7	3	15.8
2. 流動負債	92	3.0	<b>95</b>	3.1	3	3.3
(1) 翌年度償還予定地方債	70	2.3	<b>73</b>	2.4	3	4.3
(2) その他	21	0.7	<b>21</b>	0.7	0	0.0
負債合計	1,273	41.3	<b>1,314</b>	42.4	41	3.2
純資産合計	1,811	58.7	<b>1,786</b>	57.6	▲ 25	▲ 1.4
負債及び純資産合計	3,084	100.0	<b>3,099</b>	100.0	15	0.5

県民1人あたりの地方債の額は合わせて107万円で、前年度より3万円増加しています。

人口も減少しているため、一人あたりの資産、負債とも増加しています。

④有形固定資産 (目的別 対前年比較)	H20		H21		比較増減	
	億円	構成比	億円	構成比	増減額	増減率
生活インフラ・国土保全	21,438	66.8	<b>21,383</b>	67.5	▲ 55	▲ 0.3
教育	1,860	5.8	<b>1,878</b>	5.9	18	1.0
福祉	297	0.9	<b>309</b>	1.0	12	4.0
環境衛生	360	1.1	<b>340</b>	1.1	▲ 20	▲ 5.6
産業振興	7,000	21.8	<b>6,680</b>	21.1	▲ 320	▲ 4.6
警察	420	1.3	<b>398</b>	1.3	▲ 22	▲ 5.2
総務	711	2.2	<b>696</b>	2.2	▲ 15	▲ 2.1
有形固定資産合計	32,086	100.0	<b>31,685</b>	100.0	▲ 401	▲ 1.2

事業用資産とインフラ資産を合わせた有形固定資産を目的別構成比順にみると、生活インフラ・国土保全、産業振興、教育となっています。教育、福祉を除き、資産の額は、減少しています。

(2) 行政コスト計算書 (概要)

①行政コスト計算書 (性質別 対前年比較)	H20		H21		比較増減	
	億円	構成比	億円	構成比	増減額	増減率
経常行政コスト	4,564	100.0	<b>4,666</b>	100.0	103	2.2
1. 人にかかるコスト	1,533	33.6	<b>1,554</b>	33.3	21	1.4
(1) 人件費	1,322	29.0	<b>1,295</b>	27.8	▲ 27	▲ 2.0
(2) 退職手当引当金繰入	127	2.8	<b>177</b>	3.8	50	38.9
(3) 賞与引当金繰入 等	84	1.8	<b>82</b>	1.8	▲ 2	▲ 2.3
2. 物にかかるコスト	1,407	30.8	<b>1,413</b>	30.3	7	0.5
(1) 物件費	198	4.3	<b>205</b>	4.4	7	3.4
(2) 維持修繕費	28	0.6	<b>29</b>	0.6	0	1.8
(3) 減価償却費 等	1,180	25.9	<b>1,180</b>	25.3	▲ 1	▲ 0.1
3. 移転支出的なコスト	1,418	31.1	<b>1,504</b>	32.2	86	6.1
(1) 社会保障給付	60	1.3	<b>64</b>	1.4	5	7.5
(2) 補助金等	951	20.8	<b>1,061</b>	22.7	110	11.5
(3) 他会計等への支出額	53	1.2	<b>32</b>	0.7	▲ 21	▲ 39.0
(4) 他団体への公共資産整備補助金 等	354	7.8	<b>347</b>	7.4	▲ 7	▲ 2.1
4. その他のコスト(公債費利払)等	206	4.5	<b>195</b>	4.2	▲ 11	▲ 5.5
経常収益	144	100.0	<b>139</b>	100.0	▲ 4	
使用料・手数料	102	70.9	<b>102</b>	73.4	0	0.5
分担金・負担金・寄附金	42	29.1	<b>37</b>	26.6	▲ 5	▲ 11.4
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	4,420		<b>4,527</b>		107	2.4

経常行政コストは4,666億円で、経常収益は139億円となっています。経常行政コストから経常収益を差し引いた純経常行政コストは、4,527億円となり、前年度よりも107億円増加しています。

「人にかかるコスト」は、職員数減等により人件費が27億円減少していますが、退職手当引当金繰入が50億円増加していることから、全体として前年度よりも21億円増加しています。

「物にかかるコスト」は、主として教育関連経費、新型インフルエンザ対策関連経費等により全体として前年度よりも7億円増加しています。

「移転支出的なコスト」は、県から市町村への社会保障関係補助金増等により前年度よりも86億円増加しています。

「その他のコスト」では、支払利息が11億円減少しています。

行政コストの性質により、経費を区分した場合、主なものの構成順は「人にかかるコスト」(33.3%)、「移転支出的なコスト」(32.2%)、「物にかかるコスト」(30.3%)、「その他のコスト」(4.2%)、となっています。

②行政コスト計算書 (県民1人あたり 性質別 対前年比較)	H20		H21		比較増減	
	千円	構成比	千円	構成比	増減額	増減率
経常行政コスト	408	100.0	421	100.0	13	3.2
1. 人にかかるコスト	137	33.6	140	33.3	3	2.3
(1) 人件費	118	29.0	117	27.8	▲1	▲1.1
(2) 退職手当引当金繰入	11	2.8	16	3.8	5	40.2
(3) 賞与引当金繰入 等	7	1.8	7	1.8	▲0	▲1.4
2. 物にかかるコスト	126	30.8	128	30.3	2	1.4
(1) 物件費	18	4.3	18	4.4	1	4.4
(2) 維持修繕費	3	0.6	3	0.6	0	2.7
(3) 減価償却費 等	106	25.9	106	25.3	1	0.9
3. 移転支出的なコスト	127	31.1	136	32.2	9	7.1
(1) 社会保障給付	5	1.3	6	1.4	0	8.5
(2) 補助金等	85	20.8	96	22.7	11	12.6
(3) 他会計等への支出額	5	1.2	3	0.7	▲2	▲38.4
(4) 他団体への公共資産整備補助金 等	32	7.8	31	7.4	▲0	▲1.1
4. その他のコスト(公債費利払)等	18	4.5	18	4.2	▲1	▲4.6
経常収益	13	100.0	13	100.0	▲0	
使用料・手数料	9	70.9	9	73.4	0	1.4
分担金・負担金・寄附金	4	29.1	3	26.6	▲0	▲10.6
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	395		408		13	3.4

県民1人あたりでは、純経常行政コストは40万8千円となり、前年度より1万3千円増加しています。

③経常行政コスト (目的別 対前年比較)	H20		H21		比較増減	
	億円	構成比	億円	構成比	増減額	増減率
経常行政コスト	4,564	100.0	4,666	100.0	102	2.2
生活インフラ・国土保全	789	17.3	803	17.2	14	1.8
教育	1,184	25.9	1,202	25.8	18	1.5
福祉	632	13.8	659	14.1	27	4.3
環境衛生	174	3.8	188	4.0	14	8.0
産業振興	898	19.7	911	19.5	13	1.4
警察	267	5.9	276	5.9	9	3.4
総務	263	5.8	286	6.1	23	8.7
議会	12	0.3	12	0.3	0	0.0
支払利息	191	4.2	189	4.1	▲2	▲1.0
回収不能計上額	15	0.3	6	0.1	▲9	▲60.0
その他	139	3.0	136	2.9	▲3	▲2.2

行政コストを目的別に見た場合、主なものの構成順は、教育(25.8%)、産業振興(19.5%)、生活インフラ・国土保全(17.2%)、福祉(14.1%)となっています。

総務、福祉、環境衛生等では他団体への補助金や扶助費等(移転支出的なコスト)の占める割合が高く、産業振興、生活インフラ・国土保全では有形固定資産が多いことか

ら減価償却費（物にかかるコスト）の占める割合が高く、警察、教育では人件費（人にかかるコスト）の占める割合が高い特徴があります。

なお、地方交付税、地方税、国からの補助金は、実際に要する行政コスト全体から直接の受益者負担を除き地方税等で賄うべきコストがどれだけかを把握するため、行政コスト計算書には計上せず、純資産変動計算書に計上しています。

### （３）純資産変動計算書（概要）

純資産変動計算書 （総括）	H20	H21	比較増減	
			増減額	増減率
	億円	億円	億円	%
期首純資産残高	20,640	<b>20,260</b>	△ 380	△ 1.8
純経常行政コスト	△ 4,420	<b>△ 4,527</b>	△ 107	2.4
財源調達	4,047	<b>4,028</b>	△ 19	△ 0.5
地方税	1,085	<b>948</b>	△ 137	△ 12.6
地方交付税	1,999	<b>1,827</b>	△ 172	△ 8.6
その他行政コスト充当財源	148	<b>151</b>	3	2.0
経常補助金	627	<b>1,032</b>	405	64.6
建設補助金	287	<b>158</b>	△ 129	△ 44.9
臨時損益	△ 99	<b>△ 88</b>	11	△ 11.1
資産評価替・無償受入	△ 9	<b>26</b>	35	△ 388.9
期末純資産残高	20,260	<b>19,788</b>	△ 472	△ 2.3

※ 期首純資産残高は前年度貸借対照表と、期末純資産残高は今年度貸借対照表と、純経常行政コストは行政コスト計算書とそれぞれ一致します。

純資産変動計算書は、純資産の１年間の増減を要因ごとに表しています。

財源調達の主なものは、普通会計では地方税、地方交付税です。金融資産の評価損益、災害復旧費等特別な要因で発生した損益についても、行政コスト計算書ではなく、純資産変動計算書上の財源の変動として表されます。

また、純経常行政コストが受益者負担以外の財源によりどの程度賄われているかについても表しています。

平成２１年度は、期首純資産残高２兆２６０億円に対し、期末純資産残高１兆９、７８８億円となっており、当期中に４７２億円の純資産が減少しています。

臨時損益は、臨時的な要因で発生したものであって、災害復旧事業費、第三セクター等債務負担見込額である損失補償等引当金繰入、公共資産除売却損益等が含まれています。

資産評価替・無償受入は、住宅供給公社からの住宅用地受入等により２６億円増加しています。

財源調達のうち、地方税は１３７億円、地方交付税は１７２億円の減少となっています。ただし、地方交付税に臨時財政対策債を加えると、前年度よりも９７億円増加しています。

経常補助金は、雇用、社会福祉関連の基金の原資となる国庫支出金が増加したこ



と等により405億円増加しています。

(4) 資金収支計算書(概要)

資金収支計算書 (総括)	H20	H21	比較増減	
			増減額	増減率
期首資金残高	億円 54	億円 103	億円 49	% 90.7
1. 経常的収支	1,081	1,165	84	7.8
支出	3,087	3,120	33	1.1
収入	4,169	4,285	116	2.8
2. 公共資産整備収支	▲ 229	▲ 374	▲ 145	63.3
支出	1,039	1,159	120	11.5
収入	810	785	▲ 25	▲ 3.1
3. 投資・財務的収支	▲ 804	▲ 821	▲ 17	2.1
支出	1,842	2,344	502	27.3
収入	1,038	1,522	484	46.6
当期収支	49	▲ 30	▲ 79	▲ 161.2
期末資金残高	103	73	▲ 30	▲ 29.1
(基礎的財政収支)				
収入総額	6,016	6,593	577	9.6
支出総額	▲ 5,968	▲ 6,623	▲ 655	11.0
地方債発行額	▲ 895	▲ 1,035	▲ 140	15.6
地方債元利償還額	967	976	9	0.9
減債基金等増減	21	▲ 10	▲ 31	▲ 147.6
基礎的財政収支	141	▲ 98	▲ 239	▲ 169.5

資金収支計算書は、歳計現金の収支を性質の異なる3区分に分けて表しています。

経常的収支は、経常的な行政活動による資金収支を表しており、人件費、物件費等の支出と使用料・手数料や地方税、地方交付税等の収入が含まれます。

公共資産整備収支は、公共資産整備に伴う資本的支出とその財源を表しています。

投資・財務的収支は、貸付金の貸付けや地方債の償還等の支出、貸付金の回収や地方債の発行等の収入が含まれます。

経常的収支は1,165億円のプラス、公共資産整備収支が374億円のマイナス、投資・財務的収支が821億円のマイナスとなっており、結果として当期の資金収支は30億円のマイナスとなっています。

## 3 財務書類4表(普通会計)

## 貸借対照表

(平成22年3月31日現在)

(単位:千円)

借		方		貸		方	
[資産の部]				[負債の部]			
1 公共資産				1 固定負債			
(1) 有形固定資産				(1) 地方債			
①生活インフラ・国土保全	2,138,295,894					1,186,109,932	
②教育	187,841,730			(2) 長期未払金			
③福祉	30,897,452			①物件の購入等	4,115,278		
④環境衛生	34,028,097			②債務保証又は損失補償	0		
⑤産業振興	667,975,363			③他会計借入金	5,000,000		
⑥警察	39,825,113			④その他	0		
⑦総務	69,586,354			長期未払金計		9,115,278	
有形固定資産合計		3,168,450,003		(3) 退職手当引当金		140,742,358	
(2) 売却可能資産		3,648,654		(4) 損失補償等引当金		15,040,538	
公共資産合計		3,172,098,657		固定負債合計		1,351,008,106	
2 投資等				2 流動負債			
(1) 投資及び出資金				(1) 翌年度償還予定地方債			
①投資及び出資金	65,461,138			(2) 短期借入金(翌年度繰上充用金)		81,080,074	
②投資損失引当金	△167,090			(3) 未払金		0	
投資及び出資金計		65,294,048		(4) 翌年度支払予定退職手当		14,290,377	
(2) 貸付金		60,084,488		(5) 賞与引当金		8,366,025	
(3) 基金等				(6) 他会計借入金		1,000,000	
①退職手当目的基金	0			流動負債合計		104,736,476	
②その他特定目的基金	60,894,710			負債合計		1,455,744,582	
③土地開発基金	1,322,235			[純資産の部]			
④その他定額運用基金	25,428,081			1 公共資産等整備国県補助金等		881,214,378	
⑤退職手当組合積立金	0			2 公共資産等整備一般財源等		1,726,318,305	
基金等計		87,645,026		3 その他一般財源等		△639,994,030	
(4) 長期延滞債権		7,605,969		4 資産評価差額		11,241,811	
(5) 回収不能見込額		△3,237,329		純資産合計		1,978,780,464	
投資等合計		217,392,202		負債・純資産合計		3,434,525,046	
3 流動資産							
(1) 現金預金							
①財政調整基金	11,899,236						
②減債基金	24,769,269						
③歳計現金	7,284,467						
現金預金計		43,952,972					
(2) 未収金							
①地方税	886,304						
②その他	392,349						
③回収不能見込額	△197,438						
未収金計		1,081,215					
流動資産合計		45,034,187					
資産合計		3,434,525,046					

※1 他団体及び民間への支出金により形成された資産	①生活インフラ・国土保全	344,121,341 千円
	②教育	16,579,737 千円
	③福祉	21,100,539 千円
	④環境衛生	25,947,724 千円
	⑤産業振興	114,147,534 千円
	⑥警察	240,618 千円
	⑦総務	5,638,078 千円
	計	527,775,571 千円
上の支出金に充当された財源	①国県補助金等	139,998,781 千円
	②地方債	234,655,680 千円
	③一般財源等	153,121,110 千円
	計	527,775,571 千円
※2 債務負担行為に関する情報	①物件の購入等	17,786,792 千円
	②債務保証又は損失補償	73,570,693 千円
	(うち共同発行地方債に係るもの)	20,000,000 千円
	③その他	21,631,174 千円
※3 地方債残高(翌年度償還予定額を含む。)のうち670,513,950千円については、償還時に地方交付税の算定の基礎に含まれることが見込まれているものです。		
※4 普通会計の将来負担に関する情報		

項目	金額	[内訳]	
		負債計上 【(翌年度償還予定)地方 債・(長期)未払金・引当金】	注記 【契約債務・ 偶発債務】
普通会計の将来負担額	1,470,144,553 千円		
[内訳] 普通会計地方債残高	1,278,364,789 千円	1,278,364,789 千円	
債務負担行為支出予定額	7,422,495 千円	0 千円	7,422,495 千円
公営事業地方債負担見込額	14,283,996 千円		14,283,996 千円
一部事務組合等地方債負担見込額	0 千円		0 千円
退職手当負担見込額	155,032,735 千円	155,032,735 千円	
第三セクター等債務負担見込額	15,040,538 千円	15,040,538 千円	0 千円
連結実質赤字額	0 千円		
一部事務組合等実質赤字負担額	0 千円		
基金等将来負担軽減資産	775,469,215 千円		
[内訳] 地方債償還額等充当基金残高	48,236,890 千円		
地方債償還額等充当歳入見込額	41,202,541 千円		
地方債償還額等充当交付税見込額	686,029,784 千円		
(差引)普通会計が将来負担すべき実質的な負債	694,675,338 千円		

※5 有形固定資産のうち、土地は537,590,680千円です。また、有形固定資産の減価償却累計額は2,166,354,831千円です。

# 行政コスト計算書

〔 目 平成21年4月 1日  
至 平成22年3月31日 〕

(単位：千円)

## 【経常行政コスト】

	総額	(構成比率)	生活インフラ・国土保全	教育	福祉	環境衛生	産業振興	警察	総務	議会	支払利息	回収不能見込計上額	その他行政コスト
1													
(1)人件費	129,525,640	27.8%	5,102,070	81,504,614	3,216,555	3,011,008	10,588,270	18,046,588	7,272,920	783,615			
(2)退職手当引当金繰入等	17,674,857	3.8%	527,199	11,383,377	426,395	411,794	1,363,380	2,547,437	982,347	32,928			
(3)賞与引当金繰入額	8,170,158	1.8%	322,009	5,288,078	124,151	175,311	669,204	1,044,139	484,665	62,601			
小計	155,370,655	33.3%	5,951,278	98,176,069	3,767,101	3,598,113	12,620,854	21,638,164	8,739,932	879,144			
2													
(1)物件費	20,496,044	4.4%	1,804,460	4,843,523	874,915	1,187,522	4,960,959	3,086,356	3,457,606	121,202		159,501	
(2)維持補修費	2,872,882	0.6%	2,399,047	310,208			9,512	45,371	108,744				
(3)減価償却費	117,965,038	25.3%	52,310,304	4,906,685	2,007,174	2,347,900	49,896,527	2,649,451	3,846,997				
小計	141,333,964	30.3%	56,513,811	10,060,416	2,882,089	3,535,422	54,866,998	5,781,178	7,413,347	121,202			159,501
3													
(1)社会保険給付	6,443,387	1.4%		181,127	4,964,428	1,297,832							
(2)補助金等	106,111,738	22.7%	744,551	10,829,842	53,085,104	6,720,763	10,347,217	149,368	10,638,832	169,927		13,426,134	
(3)他会計等への支出額	3,220,685	0.7%	1,607,201				1,613,484						
(4)他団体への公共資産整備補助金等	34,662,892	7.4%	15,457,868	987,351	1,153,123	3,625,032	11,619,188		1,820,330				
小計	150,438,702	32.2%	17,809,620	11,998,320	59,202,655	11,643,627	23,579,889	149,368	12,459,162	169,927			13,426,134
4													
(1)支払利息	18,918,973	4.1%									18,918,973		
(2)回収不能見込計上額	567,240	0.1%										567,240	
(3)その他行政コスト													
小計	19,486,213	4.2%									18,918,973	567,240	
経常行政コスト	466,629,534		80,274,709	120,234,805	65,851,845	18,777,162	91,067,741	27,568,710	28,612,441	1,170,273	18,918,973	567,240	13,585,635
(構成比率)			17.2%	25.8%	14.1%	4.0%	19.5%	5.9%	6.1%	0.3%	4.1%	0.1%	2.9%

## 【経常収益】

	総額	(構成比率)	生活インフラ・国土保全	教育	福祉	環境衛生	産業振興	警察	総務	議会	支払利息	回収不能見込計上額	その他行政コスト	一般財源振替額
1 使用料・手数料	10,231,131		1,314,576	2,934,162	2,638,478	486,120	119,004	727,591	86,480					1,924,720
2 分担金・負担金・寄附金	3,709,676		420,794	718	74,381	7,670	3,080,499		8,510					117,104
経常収益合計	13,940,807		1,735,370	2,934,880	2,712,859	493,790	3,199,503	727,591	94,990					2,041,824
(d/a)	2.99%		2.2%	2.4%	4.1%	2.6%	3.5%	2.6%	0.3%					
(差引)純経常行政コスト	452,688,727		78,539,339	117,299,925	63,138,986	18,283,372	87,866,238	26,841,119	28,517,451	1,170,273	18,918,973	567,240	13,585,635	△ 2,041,824

# 純資産変動計算書

〔 自 平成21年4月 1日  
至 平成22年3月31日 〕

(単位:千円)

	純資産合計	公共資産等整備 国県補助金等	公共資産等整備 一般財源等	その他 一般財源等	資産評価差額
期首純資産残高	2,025,962,774	908,172,473	1,736,418,528	△ 627,244,506	8,616,279
純経常行政コスト	△ 452,688,727			△ 452,688,727	
一般財源					
地方税	94,813,422			94,813,422	
地方交付税	182,728,777			182,728,777	
その他行政コスト充当財源	15,143,370			15,143,370	
補助金等受入	119,027,081	15,804,507		103,222,574	
臨時損益					
災害復旧事業費	△ 4,195,469			△ 4,195,469	
公共資産除売却損益	△ 1,263,537			△ 1,263,537	
投資損失(投資損失引当金戻入)	401,134			401,134	
損失補償等引当金繰入等	318,837			318,837	
出資法人の出資・出捐額の取崩等	△ 874,975			△ 874,975	
基金の廃止による調整額等	△ 86,779			△ 86,779	
貸付金返還免除等	△ 3,130,976			△ 3,130,976	
科目振替					
公共資産整備への財源投入			24,191,575	△ 24,191,575	
公共資産処分による財源増	0	0	△ 1,987,810	1,987,810	0
貸付金・出資金等への財源投入			146,943,563	△ 146,943,563	
貸付金・出資金等の回収等による財源増		△ 6,707,978	△ 157,854,957	164,562,935	
減価償却による財源増		△ 36,054,624	△ 81,910,414	117,965,038	
地方債償還等に伴う財源振替			60,517,820	△ 60,517,820	
資産評価替えによる変動額	△ 802,684				△ 802,684
無償受贈資産受入	3,428,216				3,428,216
その他				0	
期末純資産残高	1,978,780,464	881,214,378	1,726,318,305	△ 639,994,030	11,241,811

# 資金収支計算書

〔 自 平成21年4月 1日  
至 平成22年3月31日 〕

(単位:千円)

1 経 常 的 収 支 の 部	
人件費	151,882,846
物件費	20,506,044
社会保障給付	6,443,387
補助金等	106,112,478
支払利息	18,874,597
他会計等への事務費等充当財源繰出支出	1,104,144
その他支出	7,068,351
支 出 合 計	311,991,847
地方税	94,392,965
地方交付税	182,728,777
国県補助金等	57,280,437
使用料・手数料	9,041,827
分担金・負担金・寄附金	237,755
諸収入	3,571,865
地方債発行額	54,742,400
基金取崩額	18,754,549
その他収入	7,753,015
収 入 合 計	428,503,590
経 常 的 収 支 額	116,511,743

2 公 共 資 産 整 備 収 支 の 部	
公共資産整備支出	81,143,704
公共資産整備補助金等支出	34,657,891
他会計等への建設費充当財源繰出支出	122,331
支 出 合 計	115,923,926
国県補助金等	26,869,507
地方債発行額	45,909,800
基金取崩額	0
その他収入	5,767,107
収 入 合 計	78,546,414
公 共 資 産 整 備 収 支 額	△ 37,377,512

3 投 資 ・ 財 務 的 収 支 の 部	
投資及び出資金	13,440
貸付金	110,215,917
基金積立額	39,235,314
定額運用基金への繰出支出	4,044,067
他会計等への公債費充当財源繰出支出	1,994,210
地方債償還額	78,852,306
支 出 合 計	234,355,254
国県補助金等	34,877,137
貸付金回収額	108,008,299
基金取崩額	0
地方債発行額	2,824,400
公共資産等売却収入	724,273
その他収入	5,815,772
収 入 合 計	152,249,881
投 資 ・ 財 務 的 収 支 額	△ 82,105,373

当年度短期借入金(翌年度繰上充用金)増減額	0
当年度歳計現金増減額	△ 2,971,142
期首歳計現金残高	10,255,609
期末歳計現金残高	7,284,467

※1 一時借入金に関する情報

- ① 資金収支計算書には一時借入金の増減は含まれていません。
- ② 平成21年度における一時借入金の借入限度額は120,000,000千円です。
- ③ 支払利息のうち、一時借入金利子は83,513千円です。

※2 基礎的財政収支に関する情報

収入総額	659,299,885 千円
地方債発行額	△ 103,476,600
財政調整基金等取崩額	△ 4,174,148
支出総額	△ 662,271,027
地方債元利償還額	97,643,390
財政調整基金等積立額	3,201,374
基礎的財政収支	△ 9,777,126 千円

## 4 作成の方針・基準等

普通会計財務書類は、「貸借対照表」、「行政コスト計算書」、「純資産変動計算書」、「資金収支計算書」の4つの財務諸表と附属明細書で構成され、総務省の「総務省方式改訂モデル」に基づく財務書類作成要領に従って作成しています。

### (1) 普通会計の対象範囲

この財務書類の普通会計の対象となっている会計は、一般会計と11の特別会計です。

※ 証紙特別会計、母子寡婦福祉資金特別会計、農業改良資金特別会計、中小企業設備導入助成資金特別会計、土地取得事業特別会計、林業・木材産業改善資金特別会計、市町村振興資金特別会計、沿岸漁業改善資金特別会計、地域総合整備資金特別会計、環境保全センター事業特別会計、公債費管理特別会計  
特別会計のうち公営事業会計（病院、下水道、港湾整備、宅地造成）は普通会計には含まれず連結対象となります。

### (2) 対象年度

対象年度は平成21年度で、平成22年3月31日を作成の基準日としています。  
なお、出納整理期間（平成21年度の会計については平成22年4月1日から5月31日まで）における出納については、基準日までに終了したものとして処理していません。

### (3) 基礎データ

原則として、貸借対照表の有形固定資産は、昭和44年度以降の決算統計（総務省による都道府県地方財政状況調査）のデータを基礎数値として使用しています。行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書は、当年度の決算統計のデータ等を基礎数値として用いています。

### (4) 貸借対照表の作成方法

#### ア 資産・負債の配列表示方法

資産・負債の項目は、固定、流動の順に配列（固定性配列法）しています。

固定、流動の区分は、原則として、1年基準を採用しています。

（1年以内に現金化される資産を流動資産、現金化されない資産を固定資産とします。

1年以内に返済される負債を流動負債、返済されない負債を固定負債とします。）

#### イ 有形固定資産の評価方法

総務省方式改訂モデルでは、有形固定資産は原則として再調達価額をもって計上することとされていますが、当面の間、取得原価を基礎として算定した価額をもって計上できるものとされています。具体的には、従来の総務省方式と同様に昭和44年度以降の決算統計における普通建設事業費の累計額をもって、有形固定資産の取得原価としています。

また、国からの補助金を受けて県が整備した有形固定資産については、計上していますが、県からの補助金を受けて他の団体（市町村、土地改良区等）が整備した有形固定資産については計上していません。

#### ウ 減価償却

土地を除く有形固定資産については、次の耐用年数を用いて、取得の翌年度から

定額法により減価償却を行っています。

【耐用年数表】

区 分	耐用年数	区 分	耐用年数
総務費		土木費	
庁舎等	50	道路	48
その他	25	橋りょう	60
民生費		河川	49
保育所	30	砂防	50
その他	25	海岸保全	30
衛生費	25	港湾	49
労働費	25	都市計画	
農林水産業費		街路	48
造林	25	都市下水路	20
林道	48	区画整理	40
治山	30	公園	40
砂防	50	その他	25
漁港	50	住宅	40
農業農村整備	20	空港	25
海岸保全	30	その他	25
その他	25	警察費	25
商工費	25	教育費	50
		その他	25

#### エ 売却可能資産

有形固定資産のうち未利用財産については、財産収入として翌年度予算措置されている資産及び当年度以前予算措置された実績がある資産を有形固定資産から振替処理しています。

売却可能な土地の価額は隣接地等の固定資産評価額に基づく評価額を0.7で割返して算定し、有形固定資産として貸借対照表に計上されていた金額との差額は純資産の部の資産評価差額に計上しています。

なお、取得価額が不明なものは評価額で取得したとみなしています。

#### オ 投資及び出資金

市場価格のある有価証券は、年度末の時価で評価し、時価と取得原価との差額を資産評価差額に計上しています。

市場価格のない投資及び出資金のうち、連結対象団体以外に対する投資及び出資金について、出資法人の純資産額のうち県の出資割合に応じた額を「実質価額」とし、実質価額が30%以上低下した場合は実質価額をもって計上しています。

#### カ 投資損失引当金

市場価格のない投資及び出資金のうち連結対象団体及び会計に対する投資及び出資金について、実質価額が30%以上低下した場合は実質価額と取得原価との差額



を貸借対照表の投資損失引当金に計上しています。

キ 貸付金及び基金等

年度末残高を計上しています。ただし、基金は用途が限定されたものを計上し、「財政調整基金」及び「減債基金」は、流動資産に区分しています。

ク 長期延滞債権

収入未済額のうち調定年度が前年度以前のを計上しています。

ケ 回収不能見込額

県税及び県税に付随する税外収入については、過去5年間の不納欠損額等の実績を基に算定した額を計上しています。税外未収金については、個別に回収可能性を判断し、回収不能債権の100%を計上しています。

コ 流動資産

現金、預金、未収金の年度末残高を計上しています。「財政調整基金」、「減債基金」は、1年以内に取り崩しが可能な流動性の高い基金とみなし、流動資産に区分しています。

サ 地方債

年度末残高から翌年度償還予定額を控除した額としています。

シ 長期未払金

債務負担行為のうち既に債務が確定した債務、他会計借入金等のうち翌年度支払予定額を控除した額を計上しています。他会計借入金については、公営企業会計（電気事業、工業用水道事業）から一般会計に対する長期貸付金です。

ス 退職手当引当金

普通会計事務事業に従事する全ての職員が年度末に退職した場合に必要な退職手当支給見込額のうち、翌年度支払予定退職手当額を除いた額を固定負債の「退職手当引当金」に計上し、「翌年度支払予定退職手当額」を流動負債へ計上しています。具体的には、地方公共団体財政健全化法における「将来負担比率」の算定に含めた「退職手当支給見込額」を計上しています。

セ 損失補償引当金

地方公共団体財政健全化法における「将来負担比率」の算定に含めた「第三セクター等債務負担見込額」を計上しています。

ソ 賞与引当金

翌年度6月に支払うことが予定される期末手当及び勤勉手当は、12月から5月までのうち12月から3月までの4ヵ月間は、当年度に支払う義務が発生しています。したがって、4ヵ月分を流動負債に計上しています。

タ 他会計借入金

公営企業会計（電気事業、工業用水道事業）からの借入金等が該当します。

チ 公共資産等整備国庫補助金等

昭和44年度から当年度までの普通建設事業費に充てられた国庫支出金等と貸付金等普通建設事業費以外の資産形成に充てられた国庫支出金等の合計額です。

ツ 公共資産等整備一般財源等

公共資産に充当された財源のうち、地方債や未払金等の負債、国庫支出金、資産評価によって発生した差額等を除いた額を計上しています。

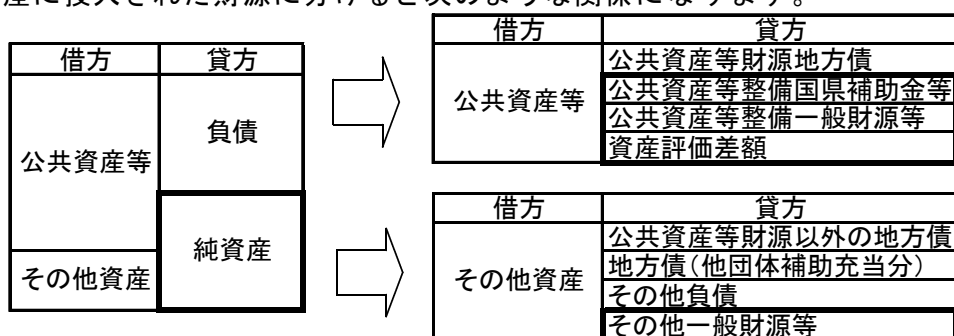
テ その他一般財源等

「資産合計－負債合計－その他一般財源等以外の純資産合計」により算出された額を計上しています。

ト 資産評価差額

新たに売却可能資産を計上した場合又は資産の評価替えを行った場合の売却可能価額と帳簿価額との差額及び寄附等により無償で資産を受贈した場合の評価差額を計上しています。

チ～トの純資産については、公会計特有の勘定科目です。これらは資産を構成する財源のうち負債を除いたものですが、公共資産に投入された財源とその他資産に投入された財源に分けると次のような関係になります。



(5) 行政コスト計算書の作成方法

ア 計上するコストの範囲等

行政サービスに要する費用のうち、貸借対照表における資産等の増加、減少につながる支出を除いた現金支出に発生主義の考え方による減価償却費、退職給与引当金繰入等のコストを加えたものとしています。

イ 経常行政コストの分類

その性質により、次の表の4種類のコストに分類しています。また、性質別に分類したコストを行政目的別に示しています。

項 目	内	容
人にかかるコスト	行政サービスの担い手である職員に要するもの	人件費、退職手当引当金繰入等、賞与引当金繰入額
物にかかるコスト	県が最終消費者となっているもの	物件費、維持修繕費、減価償却費
移転支的的なコスト	他の主体に移転して効果がでてくるようなもの	社会保障給付、補助金等、他会計等への支出額、他団体への公共資産整備補助金等
その他のコスト	上記に属さないもの	支払利息、回収不能見込計上額、その他行政コスト

① 人件費

退職金の支払は、貸借対照表上に退職手当引当金として計上されている負債の減少であり、コストの発生ではないため、行政コスト計算書では人件費から除外しています。なお、普通建設事業費に計上されている事業費支弁人件費については、人件費へ加算して計上しています。

② 退職手当引当金繰入額

当年度において、新たに退職手当引当金として繰り入れられた相当額を計上しています。

③ 物件費

旅費、需用費、役務費等の消費的な経費です。なお、普通建設事業費に計上されている事務費については、物件費へ加算して計上するよう変更しています。

④ 維持修繕費

公共用施設等の効用を保全するための経費です。

⑤ 減価償却費

有形固定資産のうち償却対象資産の当年度の償却額です。

⑥ 社会保障給付

生活保護法等の法令に基づき被扶助者に対して給付等を行う経費です。

⑦ 補助金等

負担金、補助金及び交付金等（人件費及び普通建設事業費に計上されるものを除く。）のうち、他会計に支出した額を除いて計上しています。

⑧ 他会計等への支出額

普通会計から他会計への繰出額並びに負担金、補助及び交付金等のうち普通会計以外の会計に支出した額を計上しています。

⑨ 他団体への公共資産整備補助金等

国、市町村等の他団体に支出した補助金、負担金等により、資産が形成される場合、それらの経費をコストとして計上しています。

⑩ 支払利息

元金の償還は、貸借対照表に計上されている負債の減少であり、コストの発生ではないため、県債の償還利子をコストとして計上しています。また、一時借入金に係る利子額も含まれています。

⑪ 回収不能見込計上額

貸借対照表に計上した回収不能見込額の前年度と当年度の増減額、当年度不納欠損額等を計上しています。

⑫ その他行政コスト

長期未払金と未払金の前年度と当年度の増減額、資産の増加を伴わない債務履行額等について計上しています。

ウ 経常収益

使用料・手数料及び分担金・負担金・寄附金を行政サービスに係る経常的な収益とし、発生主義の考え方から、調定額を計上しています。

なお、貸付金元金収入等のような資産の増減にかかるものについては、純資産変動計算書に計上しています。

#### (6) 純資産変動計算書の作成方法

純資産が前年度から当年度にかけてどのように変動したかを表します。貸借対照表との関係は、次のとおりです。

##### ア 純経常行政コスト

行政コスト計算書の純経常行政コストを「その他一般財源等」の減少として計上しています。

##### イ 一般財源

地方税、地方交付税、その他行政コスト充当財源については、収益ではなく「その他一般財源等」の増加として、発生主義の考え方から、調定額を計上しています。

##### ウ 補助金等受入

国庫補助金等の受入額を普通建設事業費の財源となった金額である「公共資産等整備国県補助金等」とそれ以外の「その他一般財源等」に分けて計上しています。

##### エ 臨時損益

経常的でない特別な事由に基づく損益が発生した場合、「その他一般財源等」の増減額として計上しています。

##### オ 科目振替

「公共資産等」と「その他資産」の間で、資産の内容の変化に伴う財源の変動を計上しています。

#### 【その他資産 ⇒ 公共資産等】

##### ① 公共資産整備への財源投入

財源として拘束されていなかった一般財源が、公共資産の財源として使用されることにより、財源を「その他一般財源等」から「公共資産整備一般財源等」へ振り替えています。

##### ② 貸付金・出資金等への財源投入

①と同様に「その他一般財源等」から「公共資産整備一般財源等」へ振り替えています。

##### ③ 地方債償還に伴う財源振替

地方債償還に伴い貸借対照表上では「負債」を「純資産」の「その他一般財源等」へ振り替えています。そのうち公共資産整備に伴う負債は、さらに「その他一般財源等」から「公共資産整備一般財源等」への財源投入と同じ性質を持ちます。したがって、償還額を「その他一般財源等」から「公共資産等整備一般財源等」へ振り替える必要があります。

#### 【公共資産等 ⇒ その他資産】

##### ④ 公共資産処分による財源増

公共資産の除売却等により、公共資産等の財源として拘束されていた財源が、用途の自由な一般財源として回収されたことを表しています。前年度貸借対照表計上額を「公共資産整備一般財源等」から「その他一般財源等」へ振り替えてい

ます。前年度貸借対照表計上額と除売却額の差額が生じた場合は、臨時損益に計上しています。

⑤ 貸付金・出資金等の回収による財源増

資産の内容が「公共資産等」から「その他資産」となり、公共資産等の財源として拘束されていた財源が、用途の自由な一般財源として回収されたことを表しています。財源を「公共資産整備国県補助金等」及び「公共資産整備一般財源等」から「その他一般財源等」へ振り替えています。

⑥ 減価償却による財源増

減価償却費は「公共資産等」の減少に当たりますが、「純経常コスト」の一部として「その他一般財源等」を減少させたので、相当額を「公共資産整備国県補助金等」及び「公共資産整備一般財源等」から「その他一般財源等」へ振り替えています。

カ 資産評価替えによる変動額

売却可能資産の台帳価格と公正価値との差額や市場価格のある投資等の帳簿価格と時価評価額との差額を計上しています。また、昭和43年以前に取得した資産の公正価値を計上しています。

(7) 資金収支計算書の作成方法

当年度の現金収支の動きを3部門に分けて表示しています。当年度の収支額は、前年度末と当年度末の歳計現金残高差額に一致します。

ア 経常的収支の部

人件費、社会保障経費、支払利息等の経常的行政活動の経費とそれに充当する財源との収支を表しています。

イ 公共資産整備収支の部

公共資産整備に伴う支出及び当該支出に充てた財源を計上しています。普通会計が行う公共資産整備のほか、他会計及び他団体等を通じて行った公共資産整備に対して普通会計が負担した支出額も含まれます。

ウ 投資・財務的収支の部

投資及び出資金、貸付金、基金に係る支出収入、及びそれらの財源、貸付金元金回収による収入、地方債元金償還による支出、他会計に対する公債費財源繰出による支出、公共資産売却による収入等を含みます。

